太田
同窓会報
第28号

平成11年10月12日

群馬県立
太田工業高等学校

同窓会
0276(45)4742

会長就任の挨拶

同窓会会長　天ケ谷　勉

今年の夏は、猛暑が続いたかと思えば、集中豪雨による災害が各地で発生し、又、いまだに景気回復の兆しも見えなく、失業率も5％ラインを突破するのは時間の問題といわれています。そんな異常気象と不況の中、会員の皆様方には益々ご健勝にてそれぞれの職場でご活躍の事とご推察申し上げます。又、同窓会事業に対しまして何かとご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、過日六月十六日の平成十一年度同窓会常任幹事会において前会長関昌三氏の後任として会長を拝命致しました。その責任の重さを痛感しているところですが、会員皆様のご協力を賜り、微力ながら頑張っていきたいと思います。又、本部役員を四名増員し、新体制で同窓会事業を進めてまいりますので引き続きよろしくお願い申し上げます。

会員総数もすでに八千名を超える組織になっていますが、この同窓会報は昭和四十二年創刊以来今回で第二十八号を発行することができました。会員相互の情報交換、母校の状況等を中心に提供してきていますが、この間多くの会員皆様、学校関係の方々より貴重なる原稿を戴き誠に有難うございました。さらに内容の充実を図るとともに、できるだけ会員の皆様に期待される会報の発行に努力していく所存ですので、会員皆様のご意見をどしどし事務局までお寄せ戴きたいと思います。

今後は、同窓会活動を活性化させるために、支部結成を積極的に進め、その活動を支援していきます。又、同窓会活動を一人でも多くの会員皆様に知って戴き、同窓会を魅力あるものにしていきたいと思います。そのため本部役員一同心を一つにして努力していく所存ですので、会員皆様のご指導ご協力を賜ります様重ねてお願い申し上げてご挨拶と致します。

在校生の活躍

校長　長　弘之

同窓会会員の皆様におかれましては益々ご清祥にてご活躍のご様子、心よりお喜び申し上げます。また、常日ごろより母校発展のため、物心両面にわたる多大なるご指導ご支援ご協力を賜りまして誠にありがとう御座います。衷心より御礼申し上げる次第で御座います。

平成十一年度の生徒数は、男子六六四名、女子二六名計六九〇名です。昨年度及び今年度前半の在校生徒達の活動状況を述べて挨拶にかえたいと思います。

平成十年度については、産業教育フェアに積極的に参加して昨年に続き素晴らしい成果を挙げました。アイディアロボットでは「すばる号」第三位・「ガーガー号」デザイン賞受賞また、相撲ロボットでは「龍皇帝」テクニカル賞「輪廻天昇龍」アイディア賞などの活躍をしました。

第二回テクノフェア意見体験発表では「自分への挑戦」との発表で優秀賞を獲得しております。

ヤング・ライスクッキングコンテスト県大会高校生部門で二名の生徒がそれぞれ「前橋食糧事務所所長賞」「山崎学園理事長賞」を受賞しております。また、第十三回日本テレビ高校クッキング選手権で「優秀賞」（第三位）を受賞。生徒の活躍ぶりは、平成十年十二月二十六日に日本テレビで放映されました。

日本アマチュア無線連盟主催「全日本ARD競技大会」JNクラス第一位でアジア大会日本代表として出場し第十位となりました。

資格試験では危険物・計算技術検定・電気工事士試験合格等多くの在校生たちがチャレンジし合格、また、各行事に積極的に参加し活躍しております。

部活動も目を見張るものがたくさんありました。陸上競技部・バスケットボール部・テニス部等、その他の部活動も良く健闘しました。

陸上競技部では、第五十三回国民体育大会に一一〇MHに出場し、見事第五位に入賞しました。これは、本校始まって以来のことであり正に快挙であります。全国インターハイでも第六位入賞を果たしております。また、四×一〇〇MRでは、一般・大学も含む大会で群馬県代表の座を獲得し堂々国立競技場出場を果たしております。

バスケットボール部では、二名

の生徒が国体に出場。また、県工業高校大会・東毛地区新人大会で見事優勝しております。

さて、平成十年度の進路状況は、就職八七名、進学一一三名で進学希望者がわずかづつ増加傾向にあります。進学先は、大学二六名、短大八名、職能短大六名、産業技術専門校二一名、専修（専門）学校五二名となっており、大学先は群馬大学工学部夜間主コース、東京電機大学、埼玉工業大学、日本工業大学、湘南工科大学、足利工業大学等であります。

本校でのこのような素晴らしい実績は県下でも評価されており活躍の一端を、八月号の「グラフぐんま」にも写真入りで掲載されております。

また、学校開放の一環として「群馬県民大学高校開放講座」初級パソコン講座を開講し、太田市民をはじめ県下各地より三五名の方々が生涯教育のために、本校に週に二回来校しております。十倍以上の倍率で大好評の講座になっております。

このように太田工業高校の名声を天下に知らしめる活躍は、一重に同窓会会員の皆様の暖かいご支援ご指導の賜物と学校を代表して心より改めて御礼申し上げる次第であります。先輩方が築いた伝統を如何に継承し充実・発展させたら良いかその責任の重さを感じながら、教職員一丸となって努力しております。

今年度は、十一月六・七日に第十三回工業祭を予定しております。教職員生徒一同心よりご来校をお待ちしております。ご指導ご批判をいただければ幸いと存じます。

最後になりますが、同窓会の皆様のご活躍ご健勝を心よりご祈念申し上げますと共に、今後とも何かとお世話になりますが宜しくご指導ご鞭撻ご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

開校記念日講演

「竹のように蓮のように」

講師　田島富男氏（E科2期生）
㈱千代田インターロック社長

私が本校に入学したのは開校二年目の昭和三十八年四月でした。太工のシンボルであった三角屋根の体育館もまだ出来てなく、入学式は中庭で行った記憶があります。校長の入学を許可すると言う声を聞いて一生懸命勉強した甲斐があったなと思いました。一年の担任は和田先生といって当時二十五歳くらいで大変血気盛んで毎日怒られていた記憶があります。二年生になってクラス替えがあり電気科の本多先生が担任になりました。このクラスは大変ひどい生徒が多く、担任にはいつも生徒の不始末をかばっていただきました。担任というのは本当に子供たちを卒業させようと一生懸命やっているのですね。私は卒業してもう三十二年ですが先生方にお世話になったあの頃の思い出は本当に懐かしく忘れられません。

就職は、曙ブレーキという会社を受験しました。電気関係は各高校あわせて十二名の志願者に対して二名の採用で、二名とも本校の生徒が合格し大変うれしく思いました。就職してからの寮生活では先輩後輩の関係に苦労しました。配属された職場の電気室にも悪い先輩がいました。しかし先輩は実力があり、私が三十分見ても原因も分からない故障を簡単に処理する様子を見て、勉強しなくてはならないと決意を新たにしました。勉強というのは若い時しかできません。会社の仕事を覚え、チャレンジして電検三種の資格をとりました。私は五十歳ですが今新しいことに挑戦しようと思っても不安が先に立ってしまって出来ません。皆さん方は若いのでその時々に出来る努力をして実力を付けて欲しいものです。

会社勤めで一番大切なことは約束を守ることです。皆さんが今約束を守るというと、学校に来ることが最大の約束だと思います。会社勤めの約束は会社に行くことですね。前もって言えば休むことは出来ますが、黙って休むことは約束を守らないのですから、一人前の社会人と言えないですね。

曙ブレーキには八年間お世話になりました。会社を辞めたのは、電検三種の資格を持っているのを見込まれて、ある新会社に引き抜かれたのです。しかし、事情があって独立し、自営の道を歩むことになりました。折しもオイルショックの時で、電気材料を苦労して手に入れ仕事を始めました。その時は、勤めていた頃よりも収入は多くなりました。それから十年くらいは順調にきました。バブル景気の時は仕事が多く良い時代でした。ところがここにきて大変な時代になりました。今どこの会社でもリストラ騒ぎで、五十歳代は行き場がなく悲観的になってしまいます。このような不況は、国民に利益が返ってこない政府の政策もあって、私たち中小企業に重くのしかかってきています。私自身も

死ぬか生きるかの経済状態の中にいます。しかし、こんな時にこそ演題の「竹のように蓮のように」頑張らなくてはなあと思うのです。真冬にはしんしんと雪が降り、野山にも竹にも同じだけ積もるのです。そして、竹は雪の重みで折れそうに頭を地面にまで下げますが、朝日が射し日が昇るとまた元のように天に向かい精一杯伸び続けるのです。そして蓮はどちらかというと泥水の中で生きる植物です。しかし、その蓮でさえも夏の暑い時期になりますときれいなピンクの花を咲かせるのです。どちらも今を、この苦しい時をいつかは明日こそは良い時があるだろうと思いながら生き続けているのです。私もこのような不況の時代でありますが、精一杯生きて、堪え忍びながらがんばる覚悟です。どうか皆さん方もこれから色々な苦難に立ち向かうと思いますが、苦難は忍耐力を持ってすれば、決して打破することが出来ないものではありません。皆さん方はこれからも先生方のよろしき薫陶を得て太田工業高校魂を精一杯社会にアピールできるように育っていただくことを祈念申し上げます。

文責　三浦岳俊

母校を訪ねて

2E　田島富男

久し振りに母校を訪ねました。かつて私達が学んだおもかげはなく磨き抜かれた廊下や教室が目にまばゆく学生時代を思いおこしました。そんな中今回講演依頼を頂きましたが、私にはとてもと、お断り致した訳ですが、学校長をはじめとして、諸先生方の懇願に屈してしまいました。生徒達はもちろんの事、同窓会の役員の方々PTAの役員の方々、そして、全先生方がいらっしゃるとの事で私自身、身の引き締まる思いでございました。今思うと、果たして私の「思い」が、通じたのだろうかと、不安ですが、皆さん熱心に耳を傾けて下さったのは、本当にうれしく思いました。それにしても、生徒一人一人が、礼儀正しく接してくれる姿には、好感が持てました。新聞等々の太田工高の、活躍を見る時、太田工高の卒業生の一人として、同窓会員の一人として、本当に頼もしく思います。それもこれも先生方お一人お一人が、愛と情熱をもって、子供達に接し御指導頂いている賜物と思います。最後に、母校と同窓会の限りない御発展をお祈り申し上げます。

会計就任にあたって

十三C　工藤孝俊

同窓会員の皆様方におかれましては、日々お元気でご活躍の事と推察申し上げます。

記録的な猛暑の夏が過ぎ、少しはすごし易くなって来たような今日この頃です。

さて、今年の常任幹事会で本部役員改選が行われ、会計に就任致しましたので、この場を借りて挨拶させていただきます。

私は、昭和五十三年に母校を卒業後、ミシュランタイヤに勤め、同窓会事務局をしております。六年ほど前に、ミシュランタイヤに同窓会支部をつくり、実行委員を一名選出してほしいとの要請があった事がきっかけで現在に至っております。

実行委員としては、会計監査を経て今年より会計となりましたが、初めての事ですので何かと至らぬ点も数多く有ると思いますが、先輩の皆さんにご指導をいただき、一日も早くお役に立てるよう努力したいと考えております。

最後になりますが、同窓会員皆様におかれましては、公私共にご活躍の事と存じますが、健康に十分注意し、より一層のご活躍を願い、会計就任の挨拶にかえさせていただきます。

懐かしさ今思う

三E　小林栄次

新設校として間もなく、まだ卒業生が出ていない太田工業高校に入学したのも今から思えば遠い遠い昔になってしまった。昭和四十二年に卒業してから、はや三十二年が過ぎてしまい月日が経つのも早いものであることをつくづく思う今日この頃であります。

私の学生時代の時はまだ学校が天神山古墳の東にあって、周りが田んぼと畑だらけのように記憶している。また、一年生の時は体育の時間となると完成していない三角屋根の体育館建設の手伝い、グランドの草むしりや石拾いをしていたことを想い出します。そして、この時の学校の規則はきびしく頭

は坊主頭で髪をのばすことが出来なかったことやズボンもこの時に流行していたラッパはだめで、朝礼時に先生がチェックしていたことも想い出されます。そんなことを想い浮かべながら筆をとっていると、もう一度生徒に戻って見たい気持ちにかられセンチメンタルな気分になった次第であります。

私は卒業以来、二十数年母校に行ったことがなかったが、就職先（東京電力）の関係もあったせいか社会人講師として平成七年から平成十年にかけて年一回訪問させていただきました。久しぶりに見る母校はなつかしく、立派な校舎で旧校舎と違う最新設備に感心した想いがあります。又、私が生徒の頃の先生は他高校に赴任してしまったか退職してしまったかで会うことはなかったが、平成十年の社会人講師として訪問した時に電子工学の教鞭をとっていた長先生（現校長）に会うことが出来たことであります。そして今思うに、あの頃の先生はそれぞれ個性や特長があったことを想い出されます。

現在、私の勤め先は太田工務所の中にある太田総合制御所という所でありまして、変電所や発電所の運転保守を主にした仕事をしております。その制御所の中だけでも後輩太工卒業生が何人も勤務していることを思うと、我母校も伝統校の一員になったのかと実感する次第であります。又、その後輩達も一生懸命頑張っており、心強く思うと同時に大変うれしく思っております。これからも産業振興の担い手として、太工が多くの人材を輩出してほしいと願っております。文整わず申し訳ありません。

ウォーキング

三E　細堀道夫

善玉コレステロールが少ない、空腹時血糖値が多い、今年春の、健康診断の結果である。

三年前には尿酸値が高く、ビールと大好きなモツ煮を控えて、規定値内におさまったので、しばらく安心をしていた矢先のことであった。

医者には太っているので、運動をすれば、正常範囲内になるといわれ、ウォーキングを始めた。

歩きながらの風景は、車の中から見るのと違い、道端の草や近所の家の草花、庭の作り等を細かく見ることができ、今までと一味違う世界のようです。

車社会と云われ久しい。いつも忙しく会社で働き、道路を素早く走り抜けている。

今回はからずも、歩くことになり、ゆっくり、時には立ち止まり、マイペースで、自分の意志で、という時間、あるときには一日の反省をしながら、肩をうごかしながら等、体、心にも良い影響があると思う。（結果はまだ先だが…）

『継続は力なり』を信じ、出来るだけ永く続けようと、念じつつ、今日も歩く。

20年の節目に

十五M　藤井正司

同窓会員となり、はや20年が経過したことになる。

83年三洋電機に入社、以来国内外の生産工場の開発・立上げ業務に携わってきた。寄稿を機会に業務経験を振返ると、各々の業務がマクロ経済の大きな流れと強い関わりがある事を理解した。

我々が職につくまでの日本経済は、エコノミストによると、ドルショック、及び2回のオイルショックを乗越え、世界市場の拡大により成長発展した。これらの経験は、1＄＝360円→240円の驚きとしてドルショックを、トイレットペーパーが店頭から消えた混乱としてオイルショックを強く記憶に留めている。

日本経済の成長とともに貿易収支の黒字が槍玉に挙げられ、貿易摩擦が深刻化した。プラザ合意による円高進行、NISE製品の台頭が話題をさらった時代があった。一方、国内では規制緩和による内需拡大、資産価値高騰によるバブル化した経済膨張がみられた。

その頃、シンガポールへの独資進出、国内新工場の建設が続き、生産能力の5割増を手掛け、工場はリズミカルな快音を放っていた。

最長を誇った好景気も、バブル崩壊により内需の萎縮、円高が進み（1ドル＝80円）国際競争力が低下、景気マインドが一気に萎んでしまった。同じ頃、隣大国中国は、改革解放政策による外国資本の取込み、東南アジアは生産拠点の海外移転先として発展、国内空洞化論議と共に新聞紙上を賑わせていた。

中国への合弁進出、国内工場の東南アジア移管が続き、他方国内工場は違った音色を放ち始めていた。

米ドルリンクを武器に発展してきた東南アジアの貨幣価値暴落は、今なお広域アジアの経済活力を奪い続けている。これはまた、日本の景気回復が遅々として進まない一因と思われる。

同窓会員として20年暦を変えて

きた。この間、昨今の雇用情勢が最悪である事は間違いない。現在各社が自社存続に危機感を抱き、事業の再構築を果敢に進めている。もちろん、我々も果敢に挑み、後輩達の雇用を受け入れる経済活力を取り戻そうではないでしょうか。

「五十而知命」

四C　今井一郎

私たちが母校を巣立ってから早三十一年の歳月が流れ、私たちも五十歳の大台にのろうとしております。

「五十ニシテ天命ヲ知ル」

これは、余りにも有名な孔子の「論語」の中での、人としての生き方、身の処し方についての言葉ですが、我々凡人では、なかなかこのような心境にはなれず、日々の生活に追われ、悶々とした毎日を送っているというのが現状であり、はたして天命を知る日は来るのかと思う、今日この頃であります。

この間、世の中の変遷とともに、私たちが通った学舎も内ケ島の地から茂木町へと移転新築され、卒業生も九千名を越えて、伝統校の仲間入りをするとともに、たゆまぬ歴史を刻み続けておることを、卒業生の一人として誇りに思っております。

また、私も同窓会の常任幹事になっておりますので、年に一度は同窓会の総会ということで、母校を訪問し、近代的な建物や設備を見るにつけ、三十数年前の校舎や独特の三角形をした体育館、そして実習室等を懐かしんでおります。

私たちも、昭和四十三年三月に卒業した後、一度だけ同窓会を開催しましたが、その後は疎遠の状態が続いてしまい、最近では町で同級生と会うたびに、そろそろ同窓会をという声を多く耳にするようになりました。

幸いにして、私の勤務先である太田市役所には同級生が数人いるので、同窓会の開催について相談したところ、全員が快く了承してくれました。

そこで、私たちも五十歳になるとともに、西暦二千年の記念すべき年である平成十二年一月三日に、二回目となる同窓会を開催すべく準備を進めております。

この数十年ぶりに開催する同窓会に多くの同級生が参集し、人生五十年を振り返るとともに、これからの人生について語り合うことができればと、懐かしい友との再会を今から楽しみにしております。

石

二十四E　小林重一

昭和六十三年に本校を卒業し、早いもので十一年が過ぎました。平成四年から六年間、館林商工高校に勤務し、昨年から母校でお世話になっています。

先日、測定機器を製造しているメーカーで行われた研修会に参加しました。測定機器とは、物の長さや厚さを測定するノギスやマイクロメータ等のスモールツールと呼ばれるもの、CCDカメラで撮影した画像をコンピュータで処理し三次元（縦・横・高さ）の測定が可能なもの等があります。

工場内では、いろいろな工作機械やコンピュータを人間が操作したり、機械にはできない、人間の感覚でしかできない仕事を、職人さんが真剣な様子で取り組んでいたり、高度な製造技術を間近に見学できました。その工場内に一際目立つ、4m×6m、高さ0・5mほどの大きな石が目に入りました。石の名前は忘れてしまいましたが、南アフリカから輸入したもので、とても大きな岩を切断したそうです。この石は、さらに切断し、測定するときに測定物を設置する台に使用されると教えていただきました。

なぜ石なのか。測定機器を使用する場所（設置する環境）は、使用者によってまちまちです。たとえば、長さ100㎜の鉄棒は10℃の温度変化で約0・012㎜も寸法が変化します。高い精度の要求される測定機器であるゆえ、充分に使用環境に馴染ませる必要があるのです。使用者の多様な要求に対応できるもの。

現代の科学を持ってすれば、わざわざ南アフリカから、大きな石を輸入しなくてもよさそうなものだと考えてしまいますが、人間の力では自然の石以上のものは作れないという事です。

最近、写真を始めました。主に自然の風景を撮影することに夢中になっています。四季の移り変わり、自然の偉大さ、不思議を以前より感じられるようになりました。自分の知らない自然の大きさをもっともっと感じたいと思っています。

平成十年度進路状況および就職状況

一、進路状況

卒業生二三六名（内女子八名）

平成10年度 進路状況 および 就職状況

進路状況【卒業生：236名（内女子8名）】　（3月1日現在）

就職希望	121名（3名）		進学希望	116名（5名）	
	内定	未定		合格	未定
学校紹介企業(県内)	87(3)	11	四年制大学	26	1
学校紹介企業(県外)	14	0	短期大学	8(1)	0
その他(県外)	1	0	職能短期大学校	6(1)	0
公務員	1	1	産業技術専門校	21(2)	0
縁故就職	2	2	専修(専門)学校	52(1)	2
自営	2	0	――	――	――

※上記の数字には、就職進学者が1名含まれている。
※（　）内の数字は、内数で女子の数である。

二、進路志望の状況

平成10年度三年生の進路志望の内訳は、就職希望者が120名（50.8％）、進学希望者は116名（49.2％）です。

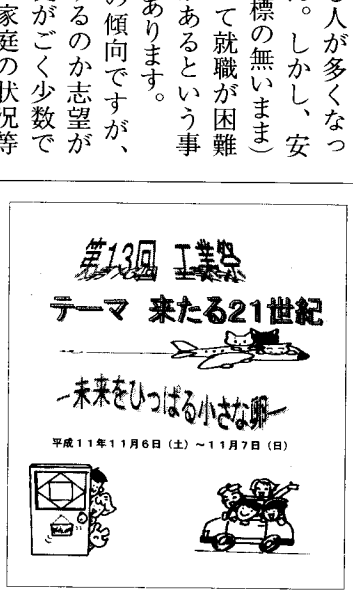
平成9年度は就職希望者55％、進学希望者45％であり、平成8年度はそれぞれ、59％、41％で、平成7年度は53％、47％、平成6年度では、57％、43％となっております。

平成10年度三年生の特徴として、就職希望者と進学希望者がほぼ同数となった事が挙げられます。世の中の不況を見て『もう少し高度な勉強や技術を身に付けてから就職しよう』と考える人が多くなったのかも知れません。しかし、安易な考え（将来の目標の無いまま）での進学は、かえって就職が困難になるという現実があるという事も十分考える必要があります。

また、ここ数年の傾向ですが、就職するのか進学するのか志望がはっきりしない生徒がごく少数ですが増えています。家庭の状況等を考慮した上で、『将来に向けて自分はどうするのか』という、自分の考えを持たなくてはいけません。自分の人生の当事者は自分です。それから、志望は決まっていても、そのための努力が甘い生徒がたくさんいます。『自分の将来のために今を頑張る』という思いを強くする必要があります。

第13回工業祭

テーマ　来たる21世紀
―未来をひっぱる小さな卵―
平成11年11月6日(土)～11月7日(日)



学校だより

職員異動　平成十一年四月

徳田　洋志先生(英語)新田暁高へ
波形　匡章先生(電気)高　工へ
正田　悦朗先生(情報)富岡実業へ
堀川　宗雄先生(国語)大泉高へ
八木　昇先生(情報)前　工へ
岡田　憲明先生(数学)伊　商へ
八木橋まさ子先生(事務)太田高へ

次の先生方は新任の先生です。

猪田　幸作先生(英語)桐　女より
山洞　一正先生(情報)桐　工より
松井　福治先生(国語)桐　南より
飯島　充祐先生(情報)桐　工より
小林　智子先生(家庭)新　任

次の先生が退職されました。

守随　吾朗先生(国語)

長い間ご苦労様でした。

編集後記

きびしい残暑も終り、やっと朝夕しのぎやすくなってきた今日この頃、なんとか第二十八号を発行することができました。原稿を戴きました先生方や同窓会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、今年の夏の話題は何んといっても、夏の全国高校野球大会において、桐生第一高校が並いる強豪を次々に破り優勝に輝いたことである。勝因は全員野球による守りで、特にスター選手はいなく、バッテリーを中心とした堅実なプレーが目をひいた。投手はコントロールミスをしない。野手は守りのミスをしない。点を相手に与えなければいつか勝機はおとずれるのである。これは何事においても同じ事がいえるのではないだろうか。最後になりましたが、今後共絶大なる御協力をお願い申し上げます。

（天ヶ谷記）